

- 【Q 1】 なぜ、いま「海の駅」なのですか？
- 【Q 2】 「海の駅」設置・登録のための条件は何ですか？
- 【Q 3】 係留施設の基準はありますか？
- 【Q 4】 「海の駅」を設置・登録するとどのような支援がありますか？
- 【Q 5】 「海の駅」が登録されている海の駅ネットワークとは、どのような組織ですか？
- 【Q 6】 海の駅ネットワークに加入した場合、会費が必要ですか？
- 【Q 7】 「海の駅」の利用状況はどうですか？
- 【Q 8】 「海の駅」は商売として成立しますか？
- 【Q 9】 すでに「海の駅」を設置・登録しているところから、これから設置・登録するところへアドバイスがありますか？
- 【Q10】 「海の駅」の設置・登録を地域振興に結びつけたいのですが、何が必要ですか？
- 【Q11】 「海の駅」がまだ設置・登録されていない地域への今後の取組みは？

【Q 1】 なぜ、いま「海の駅」なのですか？

【A 1】 瀬戸内海地域はプレジャーボートの隻数が多く、釣り等のマリンレジャーが盛んな地域ですが、一方、クルージングレジャーに目を向けてみると、同地域は豊かな自然環境や、数多くの観光資源に恵まれているものの、プレジャーボートを自由に接舷できる桟橋がほとんどないことから、起点から起点へのクルージングに終始せざるを得ず、プレジャーボートの利用促進の妨げとなっています。

このような状況の中、「海から、誰でも、いつでも、気軽に、安心して立ち寄り、利用でき、憩える港(場)」として「海の駅」を設置することで、潜在的なクルージングのニーズに応えることが可能となります。

なお、「海の駅」が多くの利用者で賑わう施設となるためには、設置者及び周辺地域が一体となって利用者を暖かく迎えることはもちろんのこと、利用者が目的を持って「海の駅」を訪れることができるよう、魅力ある特徴を持った「海の駅」にする必要があります。

【Q 2】 「海の駅」設置・登録のための条件は何ですか？

【A 2】 設置要件として①来訪者が利用できる船舶係留施設 ②予約受付や情報提供を行うガイド(受付担当者)の配置 ③公衆トイレの3点が最低必要となります。

なお、ユーザーから集めたアンケート調査によると、食事、宿泊、給油、給水、コンビニ等の付帯施設が求められています。

【Q 3】 係留施設の基準はありますか？

【A 3】特に構造の基準は設けていませんが、プレジャーボートを安心して係留できる施設であり、また静穏な水域であることが望まれるほか、予約制により確実に係留できることが重要です。

【Q 4】 「海の駅」を設置・登録するとどのような支援がありますか？

【A 4】「海の駅」のコンセプトは既存施設の活用を大前提とした制度です。したがって、これらの施設の有効活用及び運輸局における全国規模の啓発活動を展開しております。

なお、具体的には下記の支援を実施しております。

- 「海の駅」の統一ロゴマークが使用できます
- 中国運輸局ホームページ「マリンレジャー／海の駅」により情報発信します
- マリン・グラン・フェスタをはじめ、海事関係イベントでの周知・広報活動を行ないます

また、全国組織海の駅ネットワークの活動として、

- 「海の駅」パンフレット、ガイドブック、クルージングマップ等に掲載されます
- 「海の駅」ホームページ、ブログ等各種ツールを活用した情報発信ができます
- 「海の駅」開催イベント費用の一部へ支援を行っています

※施設整備費等への財政的支援はありません。

【Q 5】 「海の駅」が登録されている海の駅ネットワークとは、どのような組織ですか？

【A 5】 海洋に関する文化の普及・振興及び防災意識の向上に寄与することを目的として、平成25年6月に、既存の「NPO法人海の駅ネットワーク」と『全国「海の駅」連絡協議会』の二つの組織を統一し、設立された任意団体です。平成25年8月末現在、全国146の「海の駅」がこの組織に登録されています。

この組織では、「海の駅」のネットワークを活用し、イベントや宣伝活動等を通して海洋レクリエーションの普及に取り組んでいます。また、関係諸団体とも連携し、「海の駅」を防災拠点として利用することも検討しているところです。

※「海の駅」として認定を受ける場合、この組織へ入会していただくこととなります。

【Q 6】 海の駅ネットワークに加入した場合、会費が必要ですか？

【A 6】 会員の年会費は、30,000円です。(平成 25 年 8 月現在)
会費は、地域の連絡会が実施する広報活動やイベント等の事業活動に活用されます。

【Q 7】 「海の駅」の利用状況はどうですか？

【A 7】 「海の駅」利用状況調査によると、「海の駅」を訪れる目的は、調査当初は、食事と休憩が一番多く、次に観光、宿泊と続いておりましたが、最近の調査では、食事、観光、宿泊及び休憩に変わり、利用の多様化が認められます。また、利用回数については、リピーターが多いのも特徴で、遠くは沖縄、関東地方からの方も見受けられますが、新たな利用者も増加してきております。各「海の駅」の利用状況には濃淡があるものの、なかには係留施設が常に一杯で活況を呈している所もあります。

【Q 8】 「海の駅」は商売として成立しますか？

【A 8】 「海の駅」は新たに施設等の建設を行なうものではなく、既存の施設を活用した地域活性化のためのツールです。

したがって、「海の駅」とは係留施設を含めた、食事、給油、観光、宿泊等、地域全体の施設に対して利益の享受が図られるものと考えています。

【Q 9】 すでに「海の駅」を設置・登録しているところから、これから設置・登録するところへアドバイスがありますか？

【A 9】 もっとも大切なことは、利用者を暖かく歓迎し、安心して憩えるような場所にすることです。

そのためには、利用者の目線で考え、利用しやすい施設にすることが大切 と思われま

す。
たとえば・・・

○「海の駅」スタッフが利用者に対し、おもてなしの気持ちで接する。

○海から見えやすい位置に「海の駅」の看板を設置する。

○係留位置に目印を付けるほか、上陸後の手続きについての案内板を設置する。

○「海の駅」の特徴をアピールし、利用者が目的を持って来ることができるようにする。

【Q10】「海の駅」の設置・登録を地域振興に結びつけたいのですが、何が必要ですか？

【A10】 地域全体で「海の駅」の有効活用について取り組む姿勢が必要であり、そのためには「海の駅」を地域の情報発信の場所と位置づけ、地域が保有する文化・歴史的遺産や特産品のアピールのほか、“安らぎ”や“ゆとり”といった心のリゾート地として、ゆったりとした時間の過ごし方を提案することが重要と考えております。

さらに、ポートショーを始めとする各種イベントに積極的に参画し、地域をアピールすることや、各「海の駅」が利用者に近隣の「海の駅」を紹介する等の相互連携の実施による、「海の駅」のネットワーク化で瀬戸内海地域全体のボトムアップを図っていく必要があります。

【Q11】「海の駅」がまだ設置・登録されていない地域への今後の取組みは？

【A11】 ポートショー等でのユーザーアンケートによれば、現在の「海の駅」について、数は増えてはいるものの、必要なエリアに設置されていないとのご意見が寄せられていることから、今後は設置箇所のさらなる増加、内容の充実を図るとともに、全国の各「海の駅」とのネットワークも強化することとしております。